

# 観光客呼ぶ「リアル謎解き」

## 県郊外、活性化へ知恵

埼玉県の郊外などで「謎解き」を観光客誘致に活用する動きが広がっている。地元で隠された謎を出題し、来訪者は地域をまわりながら答えを見いだす。観光名所の少ない場所にもコアな謎解きファンや若者を呼び込み、限られた財源や人員で地域経済の活性化につなげる。

「初めて（埼玉県の）リアル謎解きゲーム行田市を訪れ、名産の『行田フライ』なども楽しめた」（20代）、市内を観光し、買い物や食事も堪能できた」（50代）  
一般社団法人の行田おもてなし観光局（同市）



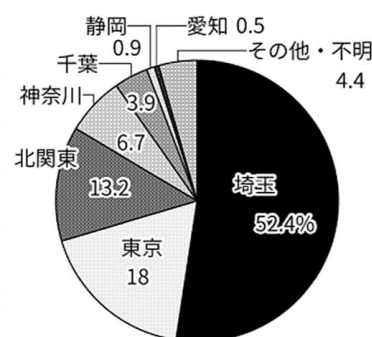
埼玉県行田市では「忍城」周辺をまわる謎解きが楽しめる

## 忍城や小説テーマに コストを抑え周遊促進

### News 展望展望

「忍城」や郷土博物館をまわりながら、実際に見聞きした情報をもとに謎を解く。LINEアプリからヒントや忍城の豆知識を得ることもできる。解決できれば認定証ももらえる。キットの費用（600円）と博物館の入館料がかかるが、22年の開始以来累計で6000セット以上が売れた。郷土博物館の24年の来場者数は7・7万人と、21年の約1・2倍に増え

### 行田・忍城謎解き参加者の居住地



埼玉県飯能市で開催中の謎解きは、冊子とLINEアプリを使って進める（6月）



「忍城」や郷土博物館をまわりながら、実際に見聞きした情報をもとに謎を解く。LINEアプリからヒントや忍城の豆知識を得ることもできる。解決できれば認定証ももらえる。キットの費用（600円）と博物館の入館料がかかるが、22年の開始以来累計で6000セット以上が売れた。郷土博物館の24年の来場者数は7・7万人と、21年の約1・2倍に増え

訪し、「行田タワー」「埼玉古墳群」など市内の観光スポットに立ち寄る人も多いという。  
おもてなし観光局の富山紀和事務局長は「行田市は人口減少が進み、交流人口で経済を回す必要がある。いかに滞在時間を延ばして消費につなげるかが重要」と話す。26年からは忍城でのリアル謎解きの第2弾を提供する予定だ。

ま、さいたま市）が中心となり、十文字学園女子大学（同県新座市）の学生が物語を、外部の謎解きクリエーターが問題を創作した。飯能市を舞台にした三島由紀夫の長編小説「美しい星」をモチーフにしている。

参加者は同市の観光案内所で専用冊子（1100円）を購入。LINEアプリが指示した地点に移動し、冊子の物語を読み進めて謎を突き止める。人気の観光地だけでなく、サイトに載らないスポットも行き先とし、約2時間をかけて街中を回遊する。制作費や広告費はラボが負担し、奥むさし飯能観光協会（同県飯能市）が冊子の在庫管理や販売を担当、記念品も用意する。売り上げの一部を協会の収入とし、他の活動にあててもらう。一般のイベントなどと違って人手がかららず、導入メリットは大きいという。

他地域でも千葉県館山市の「館山城」や東京都町田市の駅周辺など、謎解きを地域への誘客につながる取り組みが増えている。地方では人口減少が進み、活性化の担い手不足が課題だ。知名度の高い観光資源がなくても、限られた人員や財源で地域を潤す体験型謎解きの導入は一つの解決策となる。

（浅野夏樹）